

女優—この世で最も不幸にして幸福な女。

映画女優

市川崑 監督作品 ● 吉永小百合99本記念映画



吉永小百合
森 光子
中井 貴一
沢口 靖子
井川 比佐志
渡辺 徹
横山 道代
常田 富士男
平田 満
上原 謙
高田 浩吉
岸田 今子
菅原 文太
石坂 浩二



197359-202

製作 ● 田中重幸・市川崑
企画 ● 藤野野矢・市川崑
脚本 ● 市川崑
監督 ● 市川崑
撮影 ● 大橋 忠雄
照明 ● 佐藤 信
録音 ● 佐藤 信
美術 ● 杉山 洋子
編集 ● 佐藤 信
音楽 ● 佐藤 信
衣裳 ● 佐藤 信
製作 ● 佐藤 信
配給 ● 東宝株式会社

1月17日(土)全国東宝系一斉大公開

解説

田中絹代は、日本の映画史に巨大な足跡を残しつつ67才の生涯を閉じるまで、終生「映画女優」であり続けた。この火の玉となってスクリーンに生きた不世出のスター女優の半生を、名匠、市川崑監督が自から「野心作です」と名言し、鋭い洞察力と映像美を駆使して描破する鮮烈な人間ドラマが「映画女優」である。ひたすらに映画女優の道をあゆもうとした絹代は、実人生でも演技をし続け、決して素顔を見せない女でもあった。「映画女優」は、こうした田中絹代の

物語が主軸となるが、その実像のみを追うものではない。女優を志した一人の女の素顔と虚名、孤独をかみしめ、ひたすら愛を求めて流転する波乱に富んだ半生に視点を絞って描かれる。同時に、彼女の人生の舞台であった日本映画の青春期から爛熟期にかけての歴史が、重要なモチーフとして、ドラマと並行したかたちで展開する。

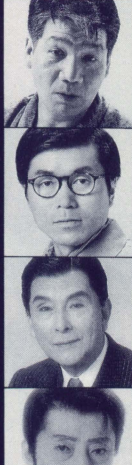
田中絹代を演ずるのは、今日の日本映画界にあつて最大のスター女優である吉永小百合。



物語

大正15年、一人の少女が女優への道を歩みはじめた。少女の名は——田中絹代。大部屋女優の給料が十、十五円が相場だった当時、破格の五十円をもらい、清光作品ではしばしば準主役に起用される絹代に同僚の嫉妬が集中した。小さな体にフアイトをみながら、絹代は撮影所通いを続けた。

そんな絹代に女優としての素質を見出した監督の五生平之助は撮影所長の城都を説得し「恥しい夢」の主役に抜擢した。口惜しがった清光は「恥しい夢」が完成した夜、強引に絹代に肉体関係をせまった。とまどいながらも絹代はそれに素直に応じた。もともと何事にも熱中するタイプの絹代は清光との愛にも激しく燃え、二人は内密の試験結婚という形で同棲生活をはじめた。だが二人の愛の生活は長くは続かなかつた。ある日、清光が暴力をふるいそれに絹代が座敷でオシッコをするという抵抗のしかたで破局をむかえた。



日進月歩の発達を続ける映画はトーキーの時代をむかえた。その第一回作品「マダムと女房」に絹代は主演した。昭和六年のことである。それから二年後、絹代は五生監督の「伊豆の踊子」に主演、大日方伝を相手に旅芸人の娘の純愛を見事に演じきり、スターの座を確かなものとした。そして、女優は女としての魅力を発揮しなければ一人前にはなれないものを信条とする絹代の異性関係は奔放なものとなり、カメラマンや野球選手との噂がささやかれていた。

昭和十五年、絹代は溝内健二作品「浪花女」に主演するため京都にむかった。読みきれないほどの研究資料を宿に届け、執拗なまでにテストをくりかえす溝内演出に絹代は困惑し、立腹したが、一方でこれまでにならぬフアイトがわきあがっていた。映画が完成して東京に戻る絹代の心には溝内への激しい思いが燃えあがっていた。それから十一年の歳月が流れ、昭和二十六年秋、溝内は新作の「西鶴一代女」に起死回生を賭けており、そのパートナーに絹代を選んだのだ。時に、絹代四十二歳。

■キャスト

田中絹代……………吉永小百合
母 ヤエ……………森光子
五生平之助……………中井靖一
川島聖子……………沢口靖子
五十屋時雄……………井川比佐志
清光 宏……………渡辺 徹
姉 玉代……………横山 道代
伯父源太郎……………常田 富士男
仲摩仙吉……………上原 謙
高田浩吉……………高田浩吉
釘貫屋の女将……………高田浩吉
城都四郎……………石坂 浩二
溝内健二……………菅原 文太

■スタッフ

製作……………田中 友幸
企画……………市川 崑
プロデューサー……………馬場 和夫
……………藤井 浩明
……………新坂 純一
新藤兼人・作「小説田中絹代」より 読売新聞社刊
脚本……………新藤 兼人
……………日高 真也
……………市川 純一郎
映画史監督……………市川 純一郎
撮影……………五十畑 幸勇
美術……………村木 忍
録音……………大橋 鉄矢
照明……………斉藤 薫
音楽……………谷川 賢作
編集……………長田 千鶴子
助監督……………吉田 一夫
監……………橋山 直己
製作担当……………平間 重和
衣裳協力・株式会社三松
資材協力・株式会社ナック
製作●株式会社東宝映画
配給●東宝株式会社